

新刊案内



「ターシャの農場の12カ月」

ターシャ・テューダー

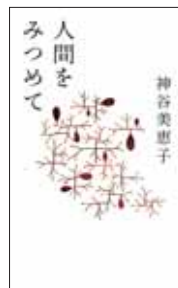
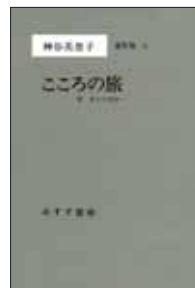


「おばけのたんけん」

西平あかね

一神教と国家 イスラーム、キリスト教、ユダヤ教 -- 内田樹 (他)
 関ヶ原合戦と石田三成 ----- 矢部健太郎
 僕たちが親より豊かになるのはもう不可能なのか -- リヴァ・フロイモビッチ
 気が遠くなる未来の宇宙のはなし ----- 佐藤勝彦

ヤンキー経済 消費の主役・新保守層の正体 -- 原田曜平
 ラファエル前派の世界 ----- 平松洋
 ファイナルガール ----- 藤野可織
 フラニーとズーイ ----- サリンジャー



「神谷美恵子」

精神科医であり、フーコーなどの哲学書の翻訳やエッセイでも知られる神谷美恵子は、1914年に岡山で生まれ、1979年没。今年は生誕百年を記念した集会なども開かれ、あらためて光が当てられています。

神谷美恵子『人間をみつめて』。精神科医として長年国立ハンセン病療養所長島愛生園に勤務し、患者と接してきた著者が、人間についての真摯な探求の作業を通して、人生を根底から問い直します。

『人間の旅 付・本との出会い』。「なぜ人の生にこんなにも重みを感じられるのだろうか、それは、その生命にこころなるものがあまりにも発達して具わってしまったからであろう」と著者は言います。生命の芽生えから人生の終章まで、広い視野を持つ体験豊かな精神科医として人の心の一生涯を語ります。

神谷の人物像を描いたノンフィクション、宮原安春『神谷美恵子 聖なる声』。神谷は「美智子皇后の心の主治医」といわれました。ハンセン病患者への献身が二人を引き合わせ、ともにハンセン病との関わりを深めてゆくこととなります。宮中で進行したこの友愛のドラマを、著者は資料を丹念に読み、取材を重ねながら明らかにしていきます。その一章に続いて、二章では生い立ちが、三章で結核との闘病について、四章で終戦後の語学専門家としての時代が、最終章では医師としての晩年期が書かれています。

6月の休館日

2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)
 27日(金)、30日(月)

開館時間

火～金曜日 午前10時～午後7時
 土・日曜日、祝日 午前10時～午後5時
 図書館は無料でご利用いただけます。

お知らせ

ボランティアで絵本の読み聞かせをしている「土岐市図書館読み聞かせの会」がメンバーを募集しています。「読み聞かせを通して子どもと触れ合いたい」「時間にゆとりができたから新しいことに挑戦したい」。そんな思いをお持ちでしたら、初めての方でも大丈夫です。ぜひ図書館まで問い合わせください。